

## ■インクルファンド 2018 年度第 1 回助成応募団体 8 団体

**助成額合計 6,983,000 円**

団体名	一般社団法人 共働事業所よって屋 (府中市)	NPO 法人こすもす (八王子市)
企画名	<b>就労が困難な人たちや年代が異なる人たちと、地域に必要とされる片付け事業を作る</b>	<b>就労継続支援 B 型事業所開設</b>
助成の種類	1 市民版地域福祉計画に基づく新たな地域福祉事業の立ち上げ準備費用	1 市民版地域福祉計画に基づく新たな地域福祉事業の立ち上げ準備費用
団体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、働き方改革が言われてはいるが、企業は長時間労働や非正規労働、仕事の率化を求めるなど厳しい労働環境にある。そのような中、働く意思があってもそのような働き方にはなじまず、就労が困難な人たちも多くいる。働くことは誰にとっても自己表現の手段であり、社会とつながり、自立するために必要なことである。地域には彼らが安心して働くことができる場はほとんどないことから、ないのであれば自分たちで安心して働くことのできる場を作ろう、というのがこの事業の目的であり、集まった多様なメンバーが対等・平等に事業内容や賃金も決める共働事業所（社会的事業所）を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧ワーカーズ・コレクティブ「パンの家 コスモス」解散後の店舗の活用について生活クラブ運動グループ・地域協議会にて協議を重ね、2008 年 5 月に「café こすもす」の事業を開始。年齢やハンディキャップの有無を問わない共に働く場と、地域の居場所づくりを目的として NPO 法人を取得し、パン・スイーツの製造・販売とカフェ事業、居場所づくり活動を行っている。09 年には社会適応訓練事業所に登録し、受け入れを開始。</li> <li>・現在、障がい者手帳取得者、手帳はないが伴走を必要としている人など、様々な働きづらさを抱えている人が一緒に働いている。また、16 年から「だれでも食堂」の活動に場所を提供している。</li> </ul>
助成を受けた事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域では高齢化などにより日常の片づけが困難な方や、終活で部屋の片づけをしたい方、親の亡くなった後の家の片づけなどのニーズにきめ細かく対応する事業を行う。見積もり段階で丁寧な聞き取りをし、依頼者に合わせた片付け方法の提案や、引き取り品の処理についても可能なものはリユース・リサイクルに回すなど、ごみ減量に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢やハンディキャップの有無を問わない雇用の場づくりと就労支援を目的に、障害者総合支援法に基づく就労継続支援 B 型を立ち上げる。</li> </ul>
助成項目	前家賃、施設改装費、パソコン、プリンター、会計ソフト、店舗什器、片付け用備品・工具、広報費	設計費、設備を含む施設改修費、前家賃
助成額	3,000,000 円	3,000,000 円
サポーター数	3 名	3 名

団体名	世田谷・ワーカーズまちの縁がわ千歳烏山 「ねこの縁がわ みいの家」(世田谷区)	中野区生活クラブ運動グループ 地域協議会(中野区)
企画名	<b>ねこの縁がわみいの家 立ち上げプロジェクト</b>	<b>中野区の子どもの「遊び場と居場所」の 調査及び結果報告シンポジウム</b>
助成種類	1 新たな地域福祉事業の立ち上げ 準備費用	2 地域福祉に関する地域の活動
団体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のコミュニティづくりの一環として、自宅の一部開放することにより、気軽にかつ資金を大きくかけずに始めるメリットを活かし、世田谷・ワーカーズまちの縁がわ千歳烏山「ねこの縁がわ みいの家」準備委員会を立ち上げた。</li> <li>・現在も取り組んでいる親子広場、お茶、着付けをはじめ、サークルや企画及び誰でも利用できるカフェラウンジ=居場所を提供することにより、地域に暮らす人々の多世代交流や助け合いをすすめて行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野区地域協議会には、子どもに直接関わる分野の活動団体がないが、「まちなかの」の運営委員は子育て世代が多い。まちづくりの集いなどでは、いっとき保育園、産後のケアなどに関する課題があげられており、地域住民からは、児童館の廃止で、地域での子どもの居場所が減っていることが問題視されている。</li> </ul>
助成を受けた事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域の居場所 気軽に立ち寄れる縁がわにする</li> <li>2.ほっとサービス 伝言板なども利用して、縁がわに集う人たちの間で、頼みごと・手伝いの輪が広がるよう工夫していく。</li> <li>3.まちの相談事業 介護や教育など、情報の交換ができるようにする。専門家の相談会も開き、困りごとの解決の糸口が見つかる場にして行く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内居住の0歳～18歳の子ども、保護者を対象に、子どもの遊び場と居場所についての実態、意向調査を実施し、調査のまとめ(報告書)を紙媒体、電子媒体で公表する。また、公表にあわせてシンポジウムを開催する。</li> <li>・地域版福祉計画の作成に向けて、遊び場と居場所をキーワードに、地域協議会だけでは拾えない子ども分野の地域課題、ニーズをつかむ調査にしたい。</li> </ul>
助成項目	間仕切り用ロールスクリーン、プロジェクター、スクリーン、麻雀卓、ガスオープン、飲料用冷蔵庫、製氷機、折りたたみイス、ベンチ、プリンター複合機、うたごえ喫茶データディスク	講座講師料、講師交通費、活動交通費
助成申請金額	350,000 円	300,000 円
サポーター数	3名	3名

団体名	なかのアクション・福島子ども保養プロジェクト（中野区）	NPO プラス・ド・西東京（西東京市）
企画名	「原発事故から8年 福島の今」放射能測定から見る現状	音楽と映像で脳に刺激！プラチナ世代の居場所づくり
助成種類	2 地域福祉に関わる地域の活動	3 地域福祉に関わる事業継続のためのサポート
団体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかのアクション・福島子ども保養プロジェクトは子どもの保養キャンプを2012年から始めている。いまだに放射能が高い地域もあり、子どもの健康に影響がないかと心配で、13回のキャンプを実施し続けている。この活動と現在の福島の状況を東京（中野区内）に住む方にも知ってもらおうと、毎年1回、講演会を主催している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保谷センターの跡地を活用して建設された多機能複合施設「パスレル保谷」（竣工2007年9月）で、市民の交流と活動を支援するフロアを運営する団体として06年12月に設立。</li> <li>・07年3月にNPOの法人格を取得し、事業を開始。独自事業の他、パスレル保谷の日常清掃、管理組合事務、管理員業務受託。11年8月から西東京市運動グループ地域協議会事務局業務を受託。</li> <li>・イベントスペース（プラスドパスレル）の運営、シェアドオフィスの貸し出し、パスレルカフェの運営、プラチナ世代のコミュニティづくりに取り組む。</li> </ul>
助成を受けた事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画監督の鎌仲ひとみさんをお呼びして、放射能が子どもにどのような影響を及ぼすのかを、映像を見て、講演をしてもらう。福島からは、放射能測定を続けている吉野裕之さんをお呼びして、データからわかる現在の状況を話していただき、今後どうすればよいのか、など参加者と一緒に話し合う。この講演を通して、福島の現状を知ってもらい、いまだに解決していない原発事故のその後を知ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年より高齢者の孤立予防を目的に、シニア世代をプラチナ世代と名付けて「プラチナ世代のコミュニティづくり」を活動の柱に位置付け、4種類の企画を行い様々なニーズに応じてきたが、初期に私募債を発行して資金調達し導入した音響、映写等の機材が劣化、一部故障し活動に支障をきたすようになり、またブルーレイ等への対応もできる機種への更新が必要となった。</li> </ul>
助成項目	講師謝礼および交通費、チラシデザイン・印刷費	音響映写機器一式
助成申請金額	90,000 円	100,000 円
サポーター数	1 名	5 名

団体名	ワーカーズまちの縁がわ・楽多舎（練馬区）	ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ（世田谷区）
企画名	リーフレットと HP をリニューアル	家庭訪問型子育て支援ホームスタート ホームビジター（訪問ボランティア）スキルアップ講座と活動のための費用援助
助成種類	3 地域福祉に関わる事業継続のためのサポート	3 地域福祉に関わる事業継続のためのサポート
団体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「NPO たすけあいワーカーズふろしき」と「NPO・ACT 支援ねりま」の長年の利用者であった方から寄贈された土地・建物を、故人の志を生かしながらどんな場にしていきたいか話し合いを重ね、地域の拠点として誰もが気軽に出入りできる場を作りたいとまちのほっとスペース「楽多舎」の運営を決めた。築 50 年以上経った古い家屋を大改修し 2012 年にオープン、コミュニティカフェ（ランチと喫茶）、相談事業、ほっとサービスを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009 年に生活クラブ子育て広場ぶらんこの運営および地域の子育て支援を目的として設立</li> <li>・2013 年に東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合に加入し、2015 年には「子育て広場ぶらんこ」が世田谷区のおでかけひろばとなった。</li> <li>・2017 年度末で生活クラブとの委託事業を終了し、2018 年 5 月から新たな事業所を開設。</li> <li>・2017 年から家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」の訪問ボランティア養成講座を開催し、訪問ボランティア（ホームビジター）5 人が誕生、この 1 年で 19 件の訪問を実施した。</li> </ul>
助成を受けた事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットと HP を新しくしたい。現在使っているものは、3 年以上経ち修正や見直しを必要とする箇所が多くなってきたため。掲載している内容なども刷新し、居場所「楽多舎」の活動・役目を知ってもらい、広げていくための有効なツールとしてリニューアルし、今まで以上に分かりやすく見やすい物を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームスタートは、未就学児が 1 人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が訪問する「家庭訪問型子育て支援ボランティア」活動。研修を受けた地域の子育て経験者が、定期的に訪問し、「傾聴」と「協働」（親と一緒に家事や育児、外出などをする）を行う。2018 年度は、現在のホームビジターが元気に活動できるようスキルアップ講座を 2 回実施する。</li> </ul>
助成申請項目	web ページ・パンフレットリニューアル デザインおよび印刷費用	講座講師料 講師交通費
助成申請金額	100,000 円	43,000 円
サポーター数	2 名	2 名